

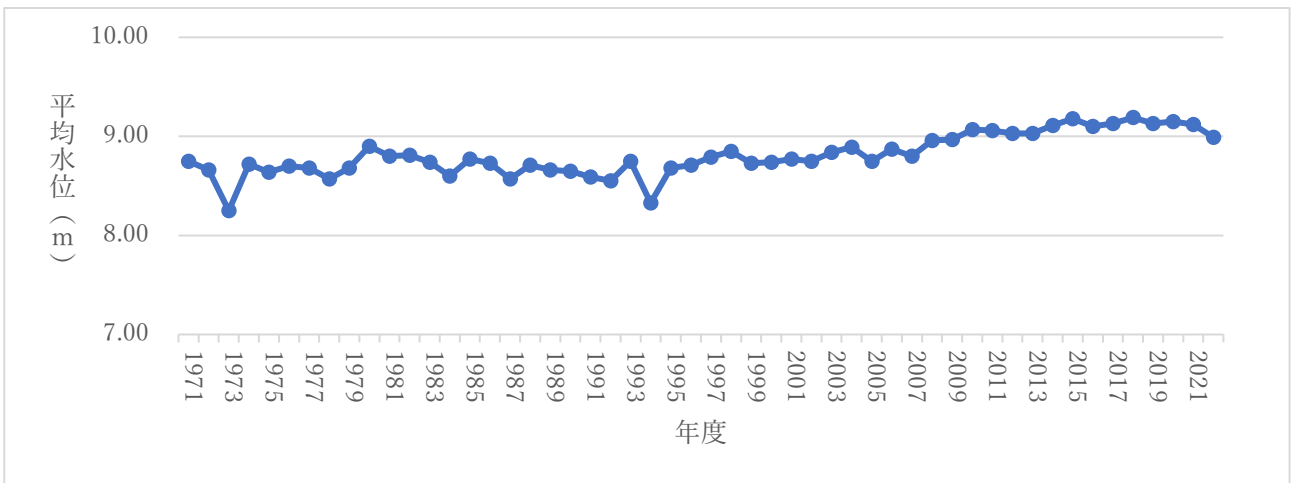
# 大垣地域の地下水位の変化

(出典：西濃地区地下水利用対策協議会総会資料)

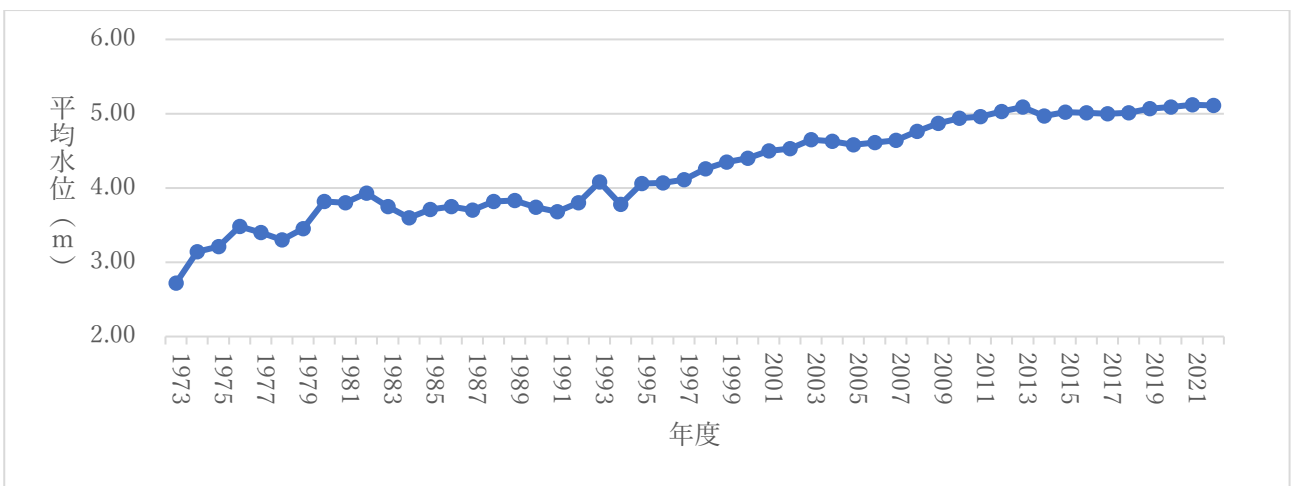
西濃地区地下水位観測所位置図



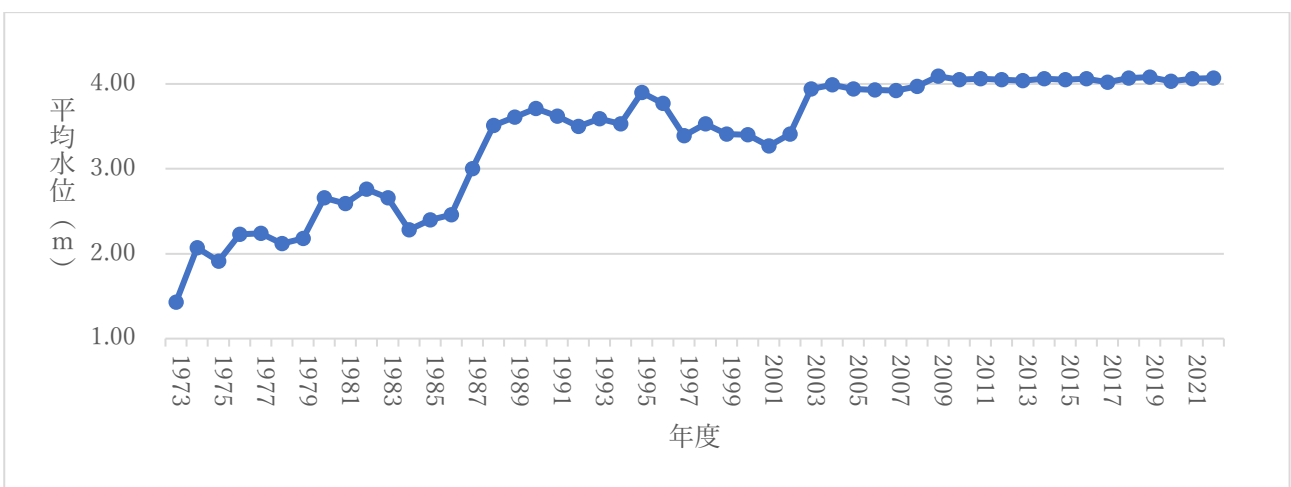
1. 大垣井 (地盤高 8.42m)



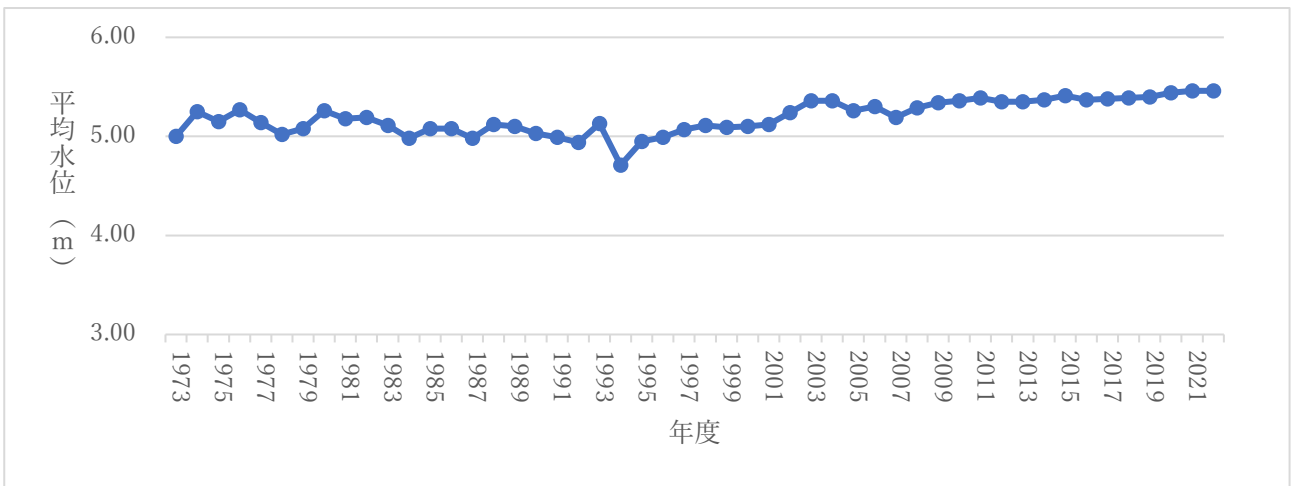
2. 興文井 (地盤高 6.26m)



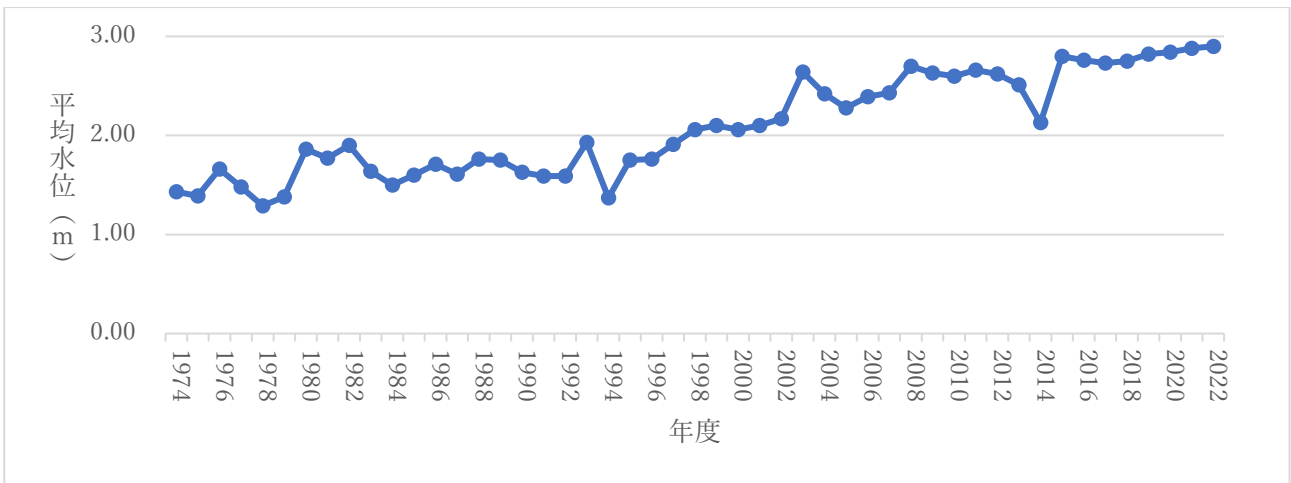
3. 西中井 (地盤高 5.16m)



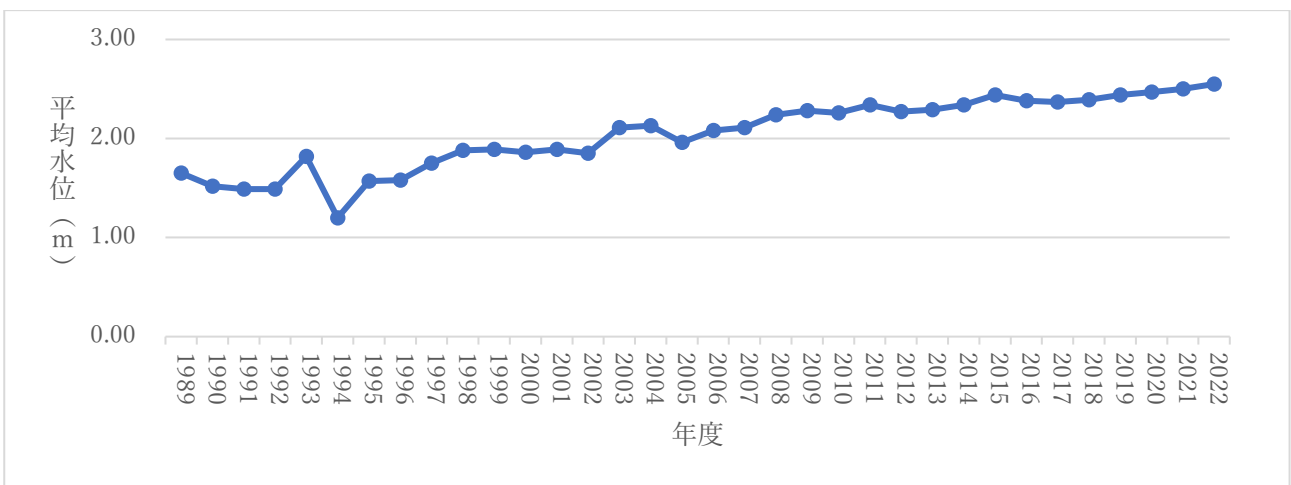
4. 東町住宅井 (地盤高 5.90m)



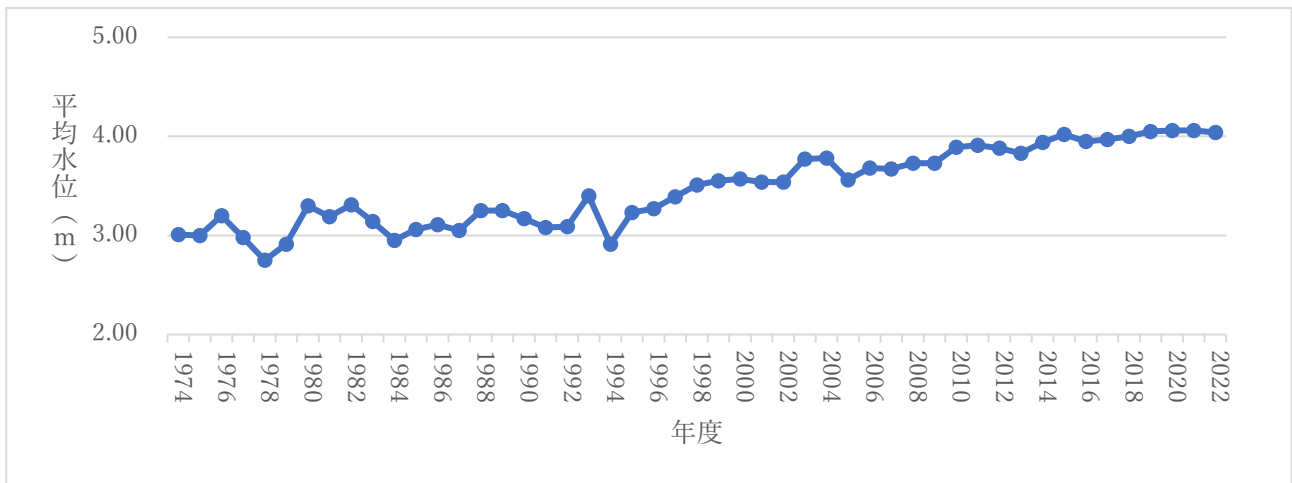
5. 江並井 (地盤高 3.36m)



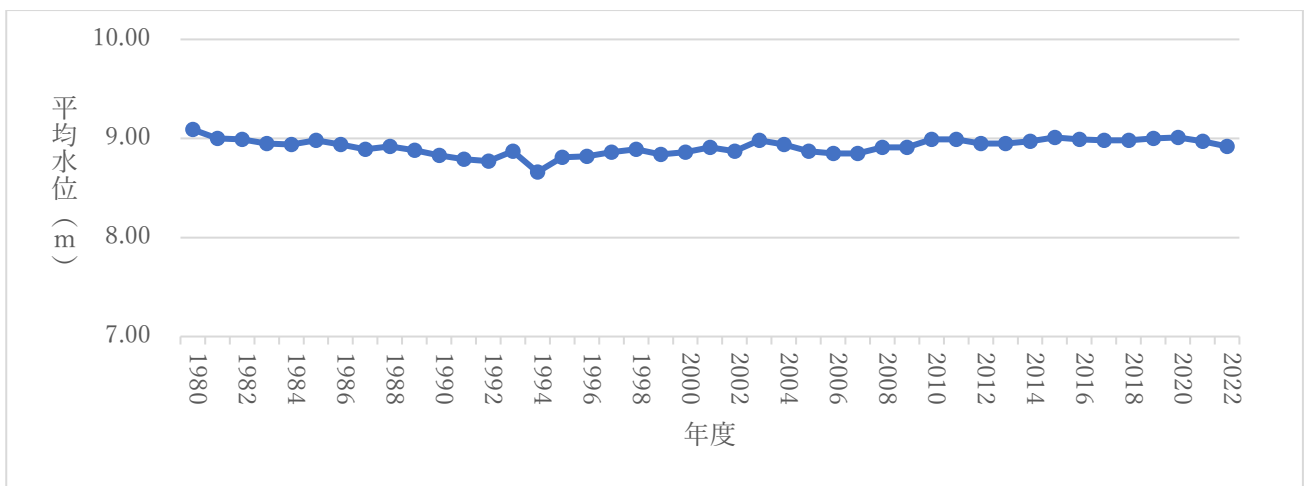
6. 江東小学校井 (地盤高 3.22m)



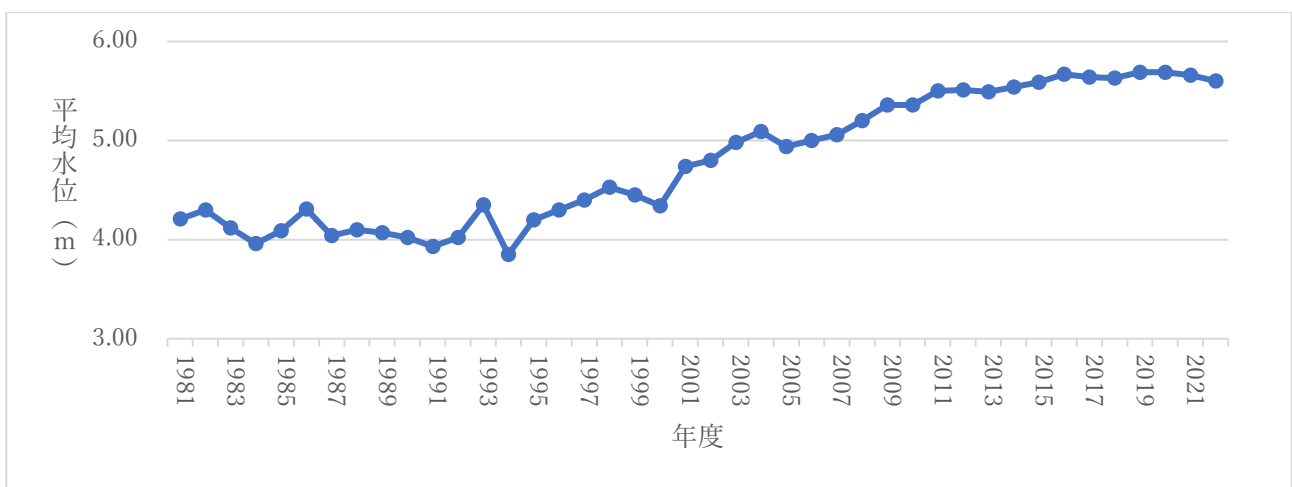
7. 野口井 (地盤高 5.33m)



8. 興福寺井 (地盤高 9.83m)

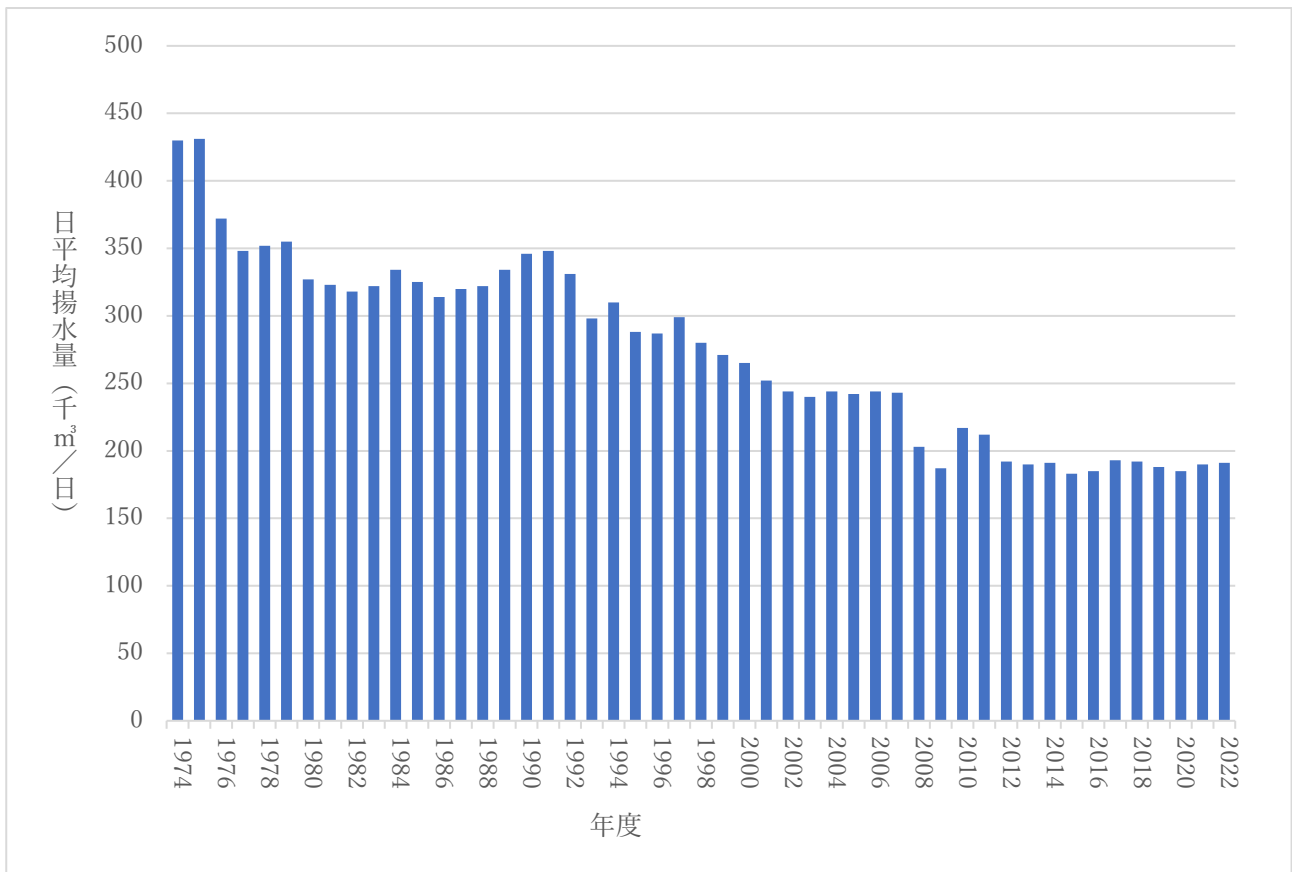


9. 西部中井 (地盤高 6.70m)



【T.P.】とは、Tokyo Peil (東京湾平均海水面) の略であり、東京湾の平均海水面を 0m とした時の高さを表す。地下水位は、横ばい又は上昇の傾向がみられます。

## 揚水量の変化（西濃地区地下水利用対策協議会）



西濃地区地下水利用対策協議会を設立した昭和 49 年（1974）当時は、協議会の区域内で 1 日当たり平均で 43m<sup>3</sup>の地下水を汲み上げていましたが、近年は、地下水の揚水量は半分以下になっています。